おいらく山岳会小史

昭和 33 年 7 月	5 日 日本橋七色堂において「おいらく山岳会」発会式
7 月	おいらく山岳会通信（現山行手帖）第１号創刊
9 月	21 日 第 1 回山行 丹沢葛葉川遡行
34 年 8 月	役員決定 代表小栗善一（初代会長）鈴木勝太郎・山本一郎他 4 名
9 月	OMC 会旗決定（現行と同じ）
昭和 35 年 3 月	会員数 119 名
8 月	第 10 号より誌名を「おいらく山岳会月報」とし月刊となる
9 月	文化放送「ひるの話題」で「おいらく山岳会」について放送（司会秋山ちえ子）ジャーナリズムに初紹介
昭和 37 年 4 月	小栗会長他 2 名 フジテレビに出演（テレビ初出演）
9 月	ペナント（小旗）制定
昭和 37 年 4 月	加宮喜一会長選任
昭和 39 年 4 月	会費月 100 円を年２回徴収とする
昭和 41 年 8 月	会費月 150 円に改定
昭和 43 年 5 月	事務所を渋谷区鈴木勝太郎宅に移転
11 月	山行 1000 回記念集中山行を大岳山にて 参加 123 名
昭和 44 年 7 月	誌名を「山行手帖」とし、表紙もつき機関紙として体裁を整える
昭和 46 年 4 月	秋山ちえ子氏テレビでＯＭＣを紹介 会員爆発的増加

10 月	会員 1,000 名を超す 一部手渡しの会報が全会員郵送となる
12 月	会報広告 1 号（津村順天堂）
昭和 47 年 4 月	会費費月額 200 円に改定
10 月	会報がタイプ印刷から活版印刷 24 頁建てに 三井田印刷から杜稜印刷へ
昭和 48 年 5 月	「テレホンサービス」開始
6 月	NHK カメラレポートで「おいらく山岳会」を放送 問い合わせ殺到「山行手帖」第三種郵便物認可を取得
9 月	料金別納による発送の簡易化
昭和 49 年 4 月	会費月額 300 円入会金 1000 円に改定
5 月	終身幹事待遇の参事制度を設け、26 氏を承認
昭和 50 年 5 月	会費 1 年分前納とする会員数 2,000 名を超す
昭和 51 年 12 月	山行に D 級を設定
昭和 52 年 4 月	家族会員制（主として配偶者）を設定
9 月	会員数 2,400 名

昭和 55 年 4 月	事務所を神田須田町に移転 同時に事務員を鈴木勝太郎・保谷繁松両幹事に委託
5 月	副会長制を設け二井田恒雄就任
6 月	会報発送業務を業者に委託
昭和 57 年 9 月	第 1 回スケッチ絵画展開催
昭和 58 年 4 月	年会費 4800 円家族会員 2400 円に改定
6 月	「事故対策部規則」「遭難救助班規則」を制定

昭和 59 年 5 月	保谷繁松副会長に選任
昭和 60 年 2 月	事務所を渋谷区松濤に移転
4 月	小栗善一に「創始者」の称号を贈る
昭和 61 年 1 月	「救難基金規則」を制定
5 月	米谷勇第 3 代会長に選任 副会長複数制を実施し、5 氏就任 高橋功、佐藤節、一之瀬末次、清水耐治、宮下庄三郎 専任事務員を田嶋ユリ幹事に委託
6 月	加宮貴一前会長逝去
昭和 63 年 4 月	高橋功第 4 第会長に選任 副会長一之瀬末次、清水耐治、岩水光輝
平成元年 3 月	昭和 63 年度決算報告に救難基金科目が設けられる
7 月	「山行手帖 30 周年記念号」、発刊 30 周年記念行事として「おいらく文庫」を開設 会員数 3,000 名を超す
8 月	創立以来の影の功労者鈴木勝太郎逝去
平成 2 年 4 月	会長・副会長再選
11 月	房ノ大山で遭難事故発生 事故者は２日後救出
11 月	会則等検討委員会発足
平成 3 年 6 月	房ノ大山遭難事故報告を山行手帖別冊で発表　山行中の人員確認など事故対策方針強化
7 月	米谷勇前会長逝去
平成 4 年 1 月	「役員選出規則」を制定
3 月	第 1 回集中山行大岳山にて実施
4 月	会長・副会長全員再選
7 月	「事務所運営規則」ほか制定

平成 5 年 4 月	会則大幅改訂 各部規則を制定 入会金 3,000 円、会費 6,000 円、家族会員 3,000 円に改定事務所属職員急病のため中野佳子幹事他 7 名の幹事で代行
6 月	おいらく祭り実行委員会発足 夏山ベストルート始まる
7 月	事務所属職員林直子会員に委託
8 月	唐松岳八方尾根で事故発生 事故者はヘリコプターで救出
平成 6 年 6 月	清水耐治第 5 代会長に選任 副会長 丸山信良・土方達大・吉田裕
8 月	文化部創設に伴い規則制定
平成 7 年 1 月	創始者小栗善一逝去
4 月	年会費 7,800 円、家族会員 3,900 円に改定 この頃より主婦と生活社・朝日新聞・ダイヤモンド社などマスコミの取材が多くなる
平成 8 年 6 月	清水耐治会長再選 副会長 丸山信良、吉田裕、笹本元一

平成 9 年 6 月	会則改訂、例会は 8 月 12 月を除く年 10 回とする

平成 10 年 6 月	佐藤彦一第 6 代会長に選任 副会長 川島慶子、高橋弘道、丸山信良庶務部と集会部を合わせて総務部とする
平成 12 年 6 月	佐藤彦一会長再選 副会長 高橋弘道、川島慶子、中島精一
平成 14 年 6 月	佐藤彦一会長再選 副会長 矢口芳昭、川島慶子、松浦啓允
平成 16 年 6 月	矢口良昭第 7 代会長に選任 副会長 有坂勝栄、吉川とみ江、滝澤幸一
平成 18 年 5 月	公式ホームページ開設 シンボルマークを制定
6 月	吉田仁洸第 8 代会長に選任 副会長 森岡保、滝澤幸一、佐野忠司
6 月	広報部新設
7 月	組織改革議論開始
平成 19 年 6 月	幹事会改革と部活動活性化 具体策決定
11 月	清水耐治元会長逝去
平成 20 年 6 月	創立 50 周年総会、会則改定、幹事会を役員会と幹事会に分離（理事職新設）山行統括部新設（山行研究部と事故対策部を統合、（文化部を山行文化部に呼称変更）安全登山グループ新設吉田仁洸会長再選 副会長 森岡保、滝澤幸一、藤田眞太郎、理事 有坂勝栄、大久保哲男、吉野誠、松井俊征、佐藤忠男
平成 20 年 7 月	創立 50 周年
平成 22 年 6 月	吉田仁洸会長再選 副会長 大久保哲男 滝澤幸一 吉野誠
平成 24 年 6 月	松井俊征第 9 代会長に選任 副会長 滝澤幸一、吉野誠、村松みさを
6 月	財政健全化対策委員会を設置
12 月	東京都山岳連盟加入
平成 25 年 3 月	第 1 回幹事交流会開催 奥武蔵あじさい館
10 月	活性化委員会を設置

平成 26 年 5 月	立山三山富士折立で滑落死亡事故発生　女性会員 1 名死亡
6 月	松井俊征会長再任副会長三上秀樹　村松みさを　濱田正和会組織改編　理事の廃止山行統括部を廃止し教育部 入門部 企画部を新設　　年会費 9,800 円 家族会員 4,900 円に改定
6 月	立山三山滑落死亡事故検証委員会を設置
平成 27 年 3 月	第 2 回幹事交流会開催 あきる野市養沢センターにて
9 月	会山行審査基準等検討委員会を設置
平成 28 年 6 月	濱田正和第 10 代会長に選任 副会長 藤田英夫、村松みさを、在田みな子
7 月	会員増加対策委員会を設置
平成 29 年 3 月	第３回幹事交流会開催 あきる野市養沢センターにて
平成 30 年 6 月	創立６０周年総会・祝賀懇親会　北区北トピアにて開催濱田正和会長再任 副会長　藤田英夫、村松みさを、在田みな子
7 月	創立６０周年
平成 31 年 3 月	第４回幹事交流会開催　あきるの市養沢センター
令和元年 5 月	年号が平成～令和へ改元
6 月	山行参加費（日帰り 200 円 泊り一律 300 円）　令和２年４月１日から導入を定
	期総会にて承認
令和 2 年 3 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため会山行を自粛および中止（3/5～6/14）
6 月	新型コロナ感染拡大防止のため定期総会を書面による議決に変更濱田正和会長再任 副会長 吉野誠 村松みさを 在田みな子
令和 3 年１月	佐藤彦一元会長逝去
3 月	変異ウイルスによる新型コロナ感染拡大のため会山行自粛及び中止（3/8～3/21 4/20～5/31）
6 月	定期総会 北区北とぴあにて開催 会則改定 参事の項削除

令和４年６月	定期総会　北区北とぴあにて開催　会則改定　参事の項削除会則改定 準幹事の創設　企画部を軽ハイキング部に名称変更
令和５年　３月	第5回幹事交流会開催　あきる野市戸倉しろやまテラス
６月	定期総会 北区北とぴあにて開催　　副会長　牛山　誠　承認